

郷土の誇り 琴奨菊関 その功績をふり返る



①昭和60年1月もちふみ②祖父一男さんと小学1年生のころ③小学6年生のときの三柱神社相撲大会(左から2人目)④平成10年8月全国中学校相撲選手権大会優勝(前列中央)⑤平成11年8月明德義塾高等学校1年(左から2人目)⑥平成13年佐渡ヶ嶽部屋入門⑦平成19年12月市民体育館での柳川巡業⑧平成23年9月パブリックビューイングの中、大関昇進が確定⑨平成23年10月大関昇進報告水上パレード⑩平成28年1月パブリックビューイングの中、日本出身力士として10年ぶりの優勝⑪平成28年3月優勝祝賀水上パレード



月に初土俵。17年の1月場所です。新入幕。23年には大関昇進を果たします。そして平成28年の1月場所は、前に出てがぶり寄る相撲で初優勝を飾りました。

琴奨菊関は、怪我と戦いながらも土俵に立ち続け、幕内通算勝利数は歴代6位の718勝。通算828勝、幕内在位92場所(歴代7位)。殊勲賞を3度、技能賞を4度受賞するなど、数々の記録を残し、19年にわたる力士生活に終止符を打ちました。

相撲の道に進むため、高知県の明德義塾中学校へと進学。中学3年生のときには全国中学校相撲選手権大会で優勝しました。その後、高校も明德義塾に進み、3年生で相撲の全国大会7冠を達成しました。

高校3年生の平成13年12月に佐渡ヶ嶽部屋に入門。翌年の1

元大関琴奨菊関(本名・菊次一弘さん)は、昭和59年1月、佃町で、建設業を営む菊次一典さん(65歳)と美恵子さん(66歳)の三男として生まれました。小学4年生のとき、初めて出場した「わんぱく相撲柳川場所」で初優勝。相撲への道を歩き出します。祖父の菊次一男さん(故人)からは「前に出る相撲をとれ」「決して引くな」と教えられ、その教えが琴奨菊関の相撲をつくっていきます。

